

# 発達臨床（神経発達症）と小児期逆境体験 への介入をつなぐ

\*当財団（講座）は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、（公財）日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会（ワークショップ）」の承認を受けております。＜承認期間：2017年7月1日～2022年6月30日 承認番号：W29111＞

期 間：2022年3月23日（水）、26日（土）のいずれかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象：教育・医療・相談・福祉・保育の各機関・現場等で子どもにかかわる専門家の方々、  
ならびに大学生・大学院生など本テーマに関心のある方

申込期限：2022年3月16日（水）（お申込みは先着順ですが、期限前に募集を終了する場合がございます）

受講料：6,500円（税込み）

配信方法：『Cisco Webex』を使用し、配信 ※事前承認制です

本講座は事前にビデオ収録し、当日オンラインで配信する講座です

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021  
東京都豊島区高田3-19-10

## 講師陣ご紹介

\*\*\* ご企画 // 山下 洋 先生：九州大学病院子どものこころの診療部 特任准教授 \*\*\*

杉山 登志郎 先生：福井大学子どものこころの発達研究センター 客員教授

友田 明美 先生：福井大学子どものこころの発達研究センター 発達支援研究部門 教授

服巻 智子 先生：Minds&Hopes 所長

（50音順）

ライフコースを通じた Bio-Psycho-Social な心身の健康の視点からアタッチメントとトラウマの問題および親子の神経発達特性と環境リスク要因から生じる不適切養育は喫緊の臨床課題となっている。いずれも親子2世代および個人と成育環境をターゲットとした包摂的な治療技法や支援技術が必要となる。またこれらを反映した診断概念として複雑性 PTSD および神経発達症が ICD11 から収載されることは、子どもと家族の心理社会的逆境体験からの回復と予防に向けてアクセスできる治療資源の社会実装の推進につながる。

本講座ではライフコースの視点から神経発達症とトラウマの臨床を多角的に捉え、それらのクロスオーバーする領域で、不適切養育の世代間伝達を予防するレジリエントな文化の創造に向かう実践と研究の最先端を紹介したい。 【九州大学病院子どものこころの診療部：山下 洋】

【プログラム】 ※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。

	時間	テーマ	講師（敬称略）
各 日	10:50～	オンライン講座の事前案内	
	11:00～12:00	早期の神経発達過程とアタッチメント・トラウマの相互作用 エビデンスと臨床	山下 洋
	12:00～13:00	～ 休 憩 ～	
	13:00～14:00	脳科学のエビデンスから不適切養育の予防に向けた社会的介入システムへ	友田 明美
	14:10～15:10	PCIT 神経発達症の家族への介入と親子2世代のレジリエンス形成	服巻 智子
	15:20～16:20	発達性トラウマ症と複雑性 PTSD への治療実践	杉山 登志郎